

6 月の SNS より

6 月 10 日

梅雨入りしたとみられる関東地方、本日は最高気温 30℃を超え真夏日なるかもしれません。

屋外では気が付かないうちに体力が奪われますので水筒を持参しても大げさではないと思います。

朝の整備活動に於いて徐々に暑さが増すのを感じました。

第 2 駐車場の原野ではこの日差しにアサガオたちが東の空を向いておりました。



6 月 24 日

周辺の森から、昼間はホトギス、夜はフクロウの鳴き声が聞こえます。

肉眼では確認できない姿を模し各所に造り物を配置してみました。

全ての動植物は季節に対し正直で、季節は全てに対し平等です。



同居猫

梅雨入りした日曜日、数年ぶりにワンちゃんのお参りにいらっしゃった方が

本堂に挨拶がてら近況をお話して下さいました。

当霊園には 2 体のお骨を預かり、1 体目のワンちゃんの時はお父様の名義、

2 体目の時はお母様の名義でありました。

お話というのは御両親がこの数年の間に他界、お家の身辺整理などからご無沙汰になった事とそれに伴い名義を自分に変えて貰いたいという事でした。

入口での話声に出てきた事務所の黒猫の顔を見て「今は猫を飼っているんですよ」

と話を切り出し黒く狭い額を撫でました。

お家に居る猫さんはお父様が亡くなった直後、親族への用事でお出掛けの

帰りにお母様の後を付いてきた事がきっかけで数年間は庭の周辺で地域猫となっておりました。

その数年の間、お母様が脳梗塞により寝たきりとなり、

およそ 6 年間の介護生活でいつの間にか子孫を増やした

庭の猫を飼い猫として受け入れました。

両親亡き後の家は一人ボツンと寂しい思いをする以前に

同居している猫たちの世話を欠かせず忙しくしているそうです。



100 枚の思い出たち

当初は霊園の四季報的な案内紙として発行した通信紙が第 100 号を迎えました。

振り返り思うのは当霊園に御縁がありました方々それぞれの思い出話に耳を向け

寂しい心情をくみ取るうちに皆様の優しい心を文章として残したい気持ちから紙面の大半を

「可愛い子たちとご家族の話」になる事が多々ありました。

発行から 8 年目、世間では良くも悪くも個人が情報を発信し瞬間に拡散できるようになりましたが今後とも細心の注意を払い大切な思い出たちを綴り続けてまいります。